LANDSCAPE DESIGN
6 1996年11月号 AUTUMN

CONTENTS

PEOPLE

**右脳を刺激する遊びの天才**
マキス・ワラミスの遊びと芸術の世界 ……1
構成／編集部　文／住吉永匡

LANDSCAPE WORKS

**21世紀広島都市デザインの新ビジョン**
「ひろしま2045 ピース&クリエイト」 ……8
文／下方 忍

**水辺再生をめざした「桜の縁側」**
広島・猿猴川アートプロムナード ……14
文／佐々木葉二

**風と水が誘うマインドスケープ**
岡崎市美術博物館 ……20
文／大山銑二、宮城俊作

**庭園と風景をつなぐもの**
かがわ鮎滝カントリークラブ ……26
文／長谷川浩己

**人々が望む「生活舞台」** 日常の中に感動を演出する
徳島市東船場ボードウオーク ……30
構成・文／北山孝雄、鈴木理恵

ART WORK

**彫刻家・田辺光彰の「BIRD」と「MOMI」** ……35
文／竹田直樹

庭を能くする建築家　第6回

**益子アトリエ** ……40
よく練り、よく考えられた、さりげなさ
薗田 穣

アメリカのコミュニティガーデン ❻

**子供たちの学びの庭 チルドレンズガーデン** ……48
望月南穂、ケイト・スタッフォード

現代庭園考

商人マインドで丹精こめた日本庭園の管理運営成功譚 ……54
**名園と名画で年間50万人の集客を誇る足立美術館**
【座談会】西田敏宏、杉原広市、吉岡幸彦、涌井雅之

**編集兼発行人**／丸茂 喬
**編集協力**／河内厚郎事務所　薗田 穣　竹田直樹
堤野仁史　満園武雄　山本忠順　佐々木葉二
**撮影協力**／廣田治雄．細川和昭　萩原宏美　奥村浩司
**ロゴタイプ・表紙デザイン**／佐藤晃一
**表紙イラストレーション**／若尾真一郎
**表紙写真**／中道順詩

**『ランドスケープデザイン』編集部**
編集
木幡裕人　高橋佳代子　石川正洋　桐山真帆子
全 雪鈴
デザイン
盛田尚弘　曽根 拓　鈴木敦子　小浜京子
広告
尾澤彰彦
販売
一ノ瀬健介　松田清江　藤永佐和子

**印刷・製本**／誠美堂印刷㈱
印刷者
須賀 猛

**取次店**／トーハン、日販、大阪屋、栗田、
鈴木書店、誠光堂

**発行所**／マルモ出版
㈱マルモ・プランニング 出版事業部)
〒150　東京都渋谷区道玄坂 1-20-1-5 F
電話　03-3496-7046
FAX　03-3496-7387

発行日／4 月、7 月、10 月、1 月の 13 日発行

**定期購読料**／1 年間(4 冊)　10,300 円(税込)
2 年間(8 冊)　19,600 円(税込)
3 年間(12 冊)　27,800 円(税込)
1 冊　定価　2,580 円(税込)

**禁無断転載**

## 特　集

# 遊びの景

企画・構成／編集部 ……61

緊急提言――移動遊園地の実現に向けて ……62

**都民の庭"臨海副都心"を、**
**大人も子どもも楽しめるプレイアイランドに！**
福川成一、田中千恵、上田祐子、住吉永匡、大橋鎬志

**東京テレポートタウンへの提言** ……68
マキス・ワラミス

**遊びの都市――ミニミュンヘン** ……70
内藤裕子

**デンマークにみる遊び環境と遊具デザインの関係** ……74
住吉永匡

**子供が主役の公園――須知川河川水辺公園** ……78
森田美紀

**遊びのケーススタディ** ……84
【ケース１】植物による環境＆アートワークショップ
――延岡市植物園の「ジャックの小径」づくり
【ケース２】大人も童心にかえった
――札幌市石山緑地の子供彫刻教室
【ケース３】日本にはじめてチルドレンズ・ミュージアムができた!
――「霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム」
【ケース４】自然の美をそのままに
――高知県大方町砂浜美術館
【ケース５】遊びをクリエイトするプログラムと人材育成
――鶴牧西公園
●現代アートを遊ぶ IZUMIWAKU Project 1996

［特別報告］**オートキャンプ場 計画・管理の徹底研究** ……94
イギリス／パーククリフキャンピング&キャラバンエステイト、スイス／マナフォーム、スウェーデン／ブレーデングキャンピング、フランス／キャンプデービークロケット、フランス／ル・ガーデン、アメリカ／グランドキャニオン・キャンパーヴィレッジ

**育てよう！ 日本のキャンプ文化** ……94
前野淳一郎

**オートキャンプは新しい人間発見のレジャー** ……101
岡本昌光

**ケーススタディ** ……102
①オートリゾート苫小牧・アルテン（北海道）
②石見海浜公園オートキャンプ場（島根県）
③原岡海岸キャンプ場、多田良北浜海岸キャンプ場（千葉県）
④しあわせの村オートキャンプ場（兵庫県）
北海道オートリゾートネットワーク構想について／奥山 清
都市公園におけるオートキャンプ場の整備について／田畑正敏

**オートキャンプ場の管理と運営** ……110
加藤 優

**オートキャンプ場のガイドライン** ……112
佐々木葉二、小林政彦、大磯良広

**スペイン、バルセロナ市のストリートファニチュア**
**コンセプトは必要以上に目立たないこと** ……114
中村雅子、北村亜砂

## 連　載

**照明探偵団・世界の都市照明❻** ……130
PARIS：光の都市軸／東海林弘靖、稲葉裕、森秀人

**デッサウ―ヴェルリッツ庭園国家の世界像――文化景観の構想** ……136
第1回「最も聖なるもの」――ヴェルリッツ庭園／大口晃央

**小堀遠州――その生涯と仕事** ……144
第１話「遠州をかたちづくるもの」その５　遠州の作庭/金澤良春

**設景の思想❻** ……150
20世紀後半のランドスケープ・造園運動小史／小林治人

**シリーズ❻ 阪神・淡路大震災の復興計画を検証する** ……154
松本地区のまちづくり／辻信一

**Universal Design Community** ……156
ユニバーサルデザイン研究会発足記念シンポジウム盛大に開催される／川島 保
ユニバーサル、サ・エ・ラ「人にやさしい公園づくり」を読んで/満園武雄

**［東京・下町の再生を願って！］** ……160
私たちの「回遊式庭園都市構想」/東京農業大学造園学科

**meta TOKYO／芹沢高志** ……164

**LOCAL TOPICS** ……166
コミュニティと対話するアート（愛知県）／茂登山清文
地域の中から生まれたアート（高知県）／坂本賢一

**News Clip** 168　**Book Review** 170
**New Products** 172　**LD People** 176

# スペイン、バルセロナ市のストリートファニチュア

## コンセプトは必要以上に目立たないこと

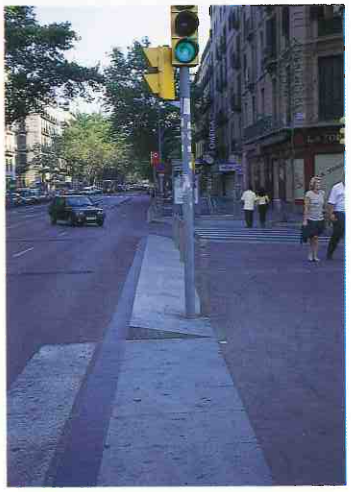
LANDSCAPE DESIGN
6 1996年11月号 AUTUMN
CONTENTS

ストリートファニチュアは、都市の街路や建築の外構だけでなく、公園においても欠かすことのできないエレメントである。子どもの遊び場であるとともに大人と子どもの憩いの場である公園に、どのようなストリートファニチュアが求められているのか。

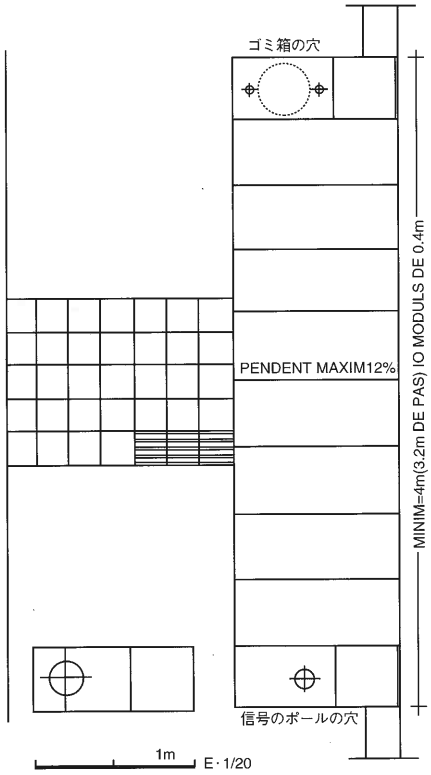
本稿では世界各国から高い評価を得ているスペイン、バルセロナ市のストリートファニチュアについて、その普及に中心的な役割を果たす同市市役所アーバンエレメント課の取り組みを紹介する。

取材／中村雅子、北村亜砂

車止めは油圧式で地中に埋設されるようになっていて、時間帯によって歩行者専用になったり、自動車が通行できるようになったりする



緑石の写真とバルセロナ市役所アーバンエレメント課の縁石ブロックの規格図面の一部




**文・写真／北村亜砂（Jordi Bellmunt i Andreu 建築事務所）**

1987年にバルセロナ市役所に新設された“アーバンエレメント課”（Departament de Servei d'Elements Urbans ）。その名称について、一般的に使われている“ストリートファニチュア”という呼称にしなかったのは、それが家の延長のように“家具”が道に置かれた時代に生まれたもので、現在はもう“家具”という機能を持っていないと考えたためだ。この名前からも同市のストリートファニチュアに対する熱意がうかがえる。

設立はフランコ独裁（1939～75年）が終わり、公共施設設備のプロジェクトが軌道に乗った次なる着手点として、無秩序に溢れたストリートファニチュアを整理することに端を発する。メンバーはいずれも、同市の都市計画に詳しい建築家で、バルセロナ市役所の都市計画ビルの一室にある事務室は、製作途中の図面がのった製図板が並び、さながら建築事務所のようだ。具体的には、予算がなくても成果を生むシステムとして、二通りの方法が取られている。一つは既製品の中から選択し、市の公式アーバンエレメントとして設置するもの。もう一つは必要に応じたデザイン案をメーカーに譲渡、商品として量産してもらう方法だ。製作費用はメーカー持ちだが、公式アーバンエレメントとして認定されるメリットがある。なお、デザイン案は、建築家やデザイナー、学生など外部からの案が採用されることもある。公認されたすべてのデザインの資料を希望者に無料配布し、また建築・デザイン学校、各協会、団体などでの講義といった普及活動にも積極的だ。

このシステムで一番重要なのは、同課のアーバンエレメントの選択基準にある。メンバーはバルセロナに設置すべきアーバンエレメントのあるべき姿を「必要以上に目立たないもの」とはっきりと描いており、その選択はミニマリズムに徹底している。シンプルで、飽きのこないデザインのアーバンエレメント

【写真A】電話BOX の色は電話局のCIカラーが使われていたが（上）、同課の働きかけにより中性色のグレーに塗り替えられている

は、華やかな歴史的建設物はもちろん、近代建築にもよく似合う。コンセプトは形だけに限らない。まずは“色”。都市の中に溶け込む中性色、グレーを基本としている。この効果は電話局のCIカラーに塗られた電話BOXをグレー化した例（写真A）を見ればわかる。次に“広告”。バス停（写真B）のように広告主が維持・管理費を負担する方法も採用しているが、基本的にアーバンエレメントは広告を貼る台ではないと考えている。広告に関しては、自治体による規制もあるため、広告看板が乱立する光景をバルセロナ市内で見受けることは少ない。

バルセロナのアーバンエレメントは、決して攻撃的ではない。建築物や他のストリートファニチュアとぶつかりあわない、街に溶け込むデザインだが、不思議とその存在感は強い。「必要以上に目立たないもの」をつくるのは、勇気のいることかもしれない。が、皆の目につこうとすればするほど、異なったコンセプトデザインが道に溢れ、逆にお互いを打ち消してしまう。同じ待ち合わせをするのでも、近代広場にあるロココ調ベンチでぎらぎら輝き音楽を奏でる時計台を見ながらと、木陰にあるシンプルなベンチで美しい街並みを眺めながらとでは、だいぶ違う。ストリートファニチュアは街の景観をつくる重要な要素のひとつである。たとえそれがどんなに小さくても、街の雰囲気を良くも悪くもできるということを、このレポートで何かつかんでいただければ幸いである。

【写真B】広告板を組み合わせたミニマルなバス停。広告主にメンテナンス費を負担してもらっている

歩道を上げずに縁石を上げた遊歩道。フラットなためローラースケーターがよく集まる

▶歩道の曲がり角に置かれているプランター。楕円形になっているため、歩行者のじゃまにならず、コーナーの動線の役割も果たしている

# バルセロナ市のストリートファニチュアをデザインする人々

聞き手／北村亜砂

**バルセロナ市のストリートファニチュアは、同市市役所アーバンエレメント課、メーカー、IDデザイナーそして建築家の手によるものである。ストリートファニチュアをデザインする上での配慮点について、建築家とIDデザイナーのコメントを交えながら紹介する。**

## 公共スペースのプロジェクトとトータルで考えるストリートファニチュア

バルセロナ市役所／都市計画課 Jordi Henrich（ジョルディ・エンリック）、Olga Tarrassó（オルガ・タラソ）（建築家）

**建築家によるものは、自分のプロジェクトのためにデザインしたものを、メーカーが量産するケースが多く、環境にあったデザインが生かされる利点がある。両氏は、市の多くの公共スペースを手がける、バルセロナの都市づくりにおいてのエキスパートである。**

●**作品**：NUベンチ（写真C）

※その他の作品（PEP ランプ、PEP ランプショートサイズ、KAYNA ランプ）

●**生産までの経緯**：1987年、General Moragues広場（サンティアゴ・カラトラバの橋のふもと）をつくった際にデザインしたベンチを、幾度か改良した後、1991年に量産化。

●**コンセプト**：同広場の芝生のスペースと土のスペースの境界線である対角線を強化するためのベンチだったため、線上に水平に伸びる抽象的で、かつ風景に中性的なものをつくろうとした。また、従来品よりも長いものをめざした。広場公開後「背もたれがないベンチしかないのは不便」という市民の要求により、背もたれのあるバージョンも追加。現在も異なるサイズの試みを続けている。

●**ストリートファニチュアをデザインする上での配慮点について**

「まず、頑丈であることが大切で、それからデザインだと思います。特有すぎるデザインは避け、公共スペースのプロジェクトとトータルで考えるようにしています」

【写真C】NUベンチ。芝生と土の境界線を強化するためにつくられたが、背もたれがないベンチしかないのは不便という市民の声で、現在は背もたれのあるバージョンも追加されている

海岸には、真水の出る無料のシャワーが設置されていて、デザインもシンプルで美しい

【写真D】モービル・ユニット・バー。乱雑な屋台が設置された海岸のイメージをよくするため、シーズンオフに撤去できる店を設置

## 「一番大事なのは機能性」と語ったアーティスト

工業デザイナー／彫刻家：Antoni Roselló（アントニ・ロセリョ）

バルセロナで、ストリートファニチュアを専門としているデザイナーは少ない。同氏はその数少ないうちの一人でMicro Architectureを多く手がけている。また同時に、彫刻やモニュメントでも活躍している彫刻家でもある。

●**作品**：モービル・ユニット・バー（写真D）

※その他の作品（宝くじ販売BOX、インフォメーションBOX、公衆トイレ、他）

●**生産までの経緯**：好き勝手な屋台が設置された海岸にイメージをよくするため、シーズンオフには撤去できる販売店の製作をバルセロナ市に依頼される。

※当初の設置場所：ガラッフ海岸（バルセロナ市より南20Km）

※その後の設置場所：バルセロナ、サンセバスチャン海岸／地中海沿いの海岸すべて（予定）

ロセリョ氏による宝くじ販売BOX（左）と街角の遊具（上）。遊具にはゴム製のマットが敷かれていて、安全面の配慮もされている

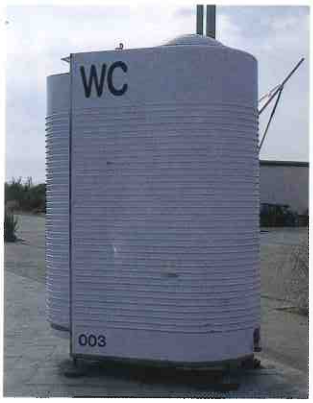
●**コンセプト**：人々の生活が変わり、都市も発達しているにもかかわらず、昔から何の変化もない屋台に現代テクノロジーの色合いを出した。清潔感、高級感を出し、厳しい立地条件での耐久性にも優れた素材（主にポリエステル、ステンレス、木）を選択した。遠方からも識別しやすいよう、看板が付くマストがある。日よけ屋根と床部分が折りたたみ式になっており、店の開閉は非常に簡単、閉店時も頑丈に内部を保護できる。さらに、倉庫（出入り口のある部分）を内部にスライドするとコンテナに入るサイズになり、設置、撤去が可能になった。

●**設置場の風景に合うよう努力したことは**

「海の景色を遮らないよう、すべての要素を水平に伸ばし、透明感を出しました。また、以前の屋台には必ず側面や裏の「壁」が存在しましたが、これは、360°からアクセスができる、すべての面が「正面」と感じられるものにしました。また、製作においては模型を作り、関係者や市民の意見を聞きながら進めました」

●**ストリートファニチュアをデザインする上での留意点について**

「まず、機能性が大事です。売店に冷暖房がない、収納スペースがない、などといった問題は解決し、使いやすくしなくてはいけません。そして耐久性ですね。立地条件や破壊



海岸に置かれている公衆トイレも、コンパクトで機能性を重視し、デザインも美しい

インフォメーションBOX。せまいスペースにロッカーなど多様な機能が盛り込まれている

行為に耐えられる素材を選択しなければなりません。そして最後にイメージだと思います。現在の時代に合い、かつ街の雰囲気にも合うものをつくっていくことです」

**●アーティストが手がけると、とかく芸術に片寄りがちになるが、同氏の作品は非常に機能的だ。彫刻家としてつくる作品とIDとしてつくる作品とは何が違うのか。**

「私としては、彫刻をつくるのもストリートファニチュアをデザインするのも同じ精神からきています。アーティストが作品をギャラリーで発表するのはいっこうにかまわない。そこに行くか行かないかの問題ですから。しかし、それが公共のスペースとなると話は違います。そこを利用する誰もが気持ち良く使ったり、感じたりしてくれるため、それぞれ機能を備えなくてはなりません。したがって、モニュメントをつくる場合も、作者のスタイルに片寄り、互いに似たような作品が街のあちこちにいくつも置かれるのではなく、それぞれ異なった設置場所に基づいた作品をつくるべきだと考えます。街はアートサロンではないのですから」

マリンビレッジに設置されたロセリョ氏によるモニュメント。海側（コルテン部）は風切り、陸側（ステンレス部分）は建物を意味している

## バルセロナから見た日本のストリートファニチュア

文／中村雅子（中村雅子デザイン事務所代表）

ひと頃前の日本にも、良いストリートファニチュアの風景があった。

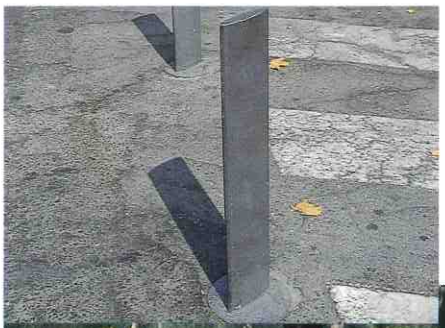
塀際に飾られたひな壇式の鉢植え、交流の場としての縁側、そして土門拳の“鞍馬天狗ごっこの子どもたち”のような通りの風景だ。

しかし今、通りは交通手段としての“移動のための通り”になってしまったようだ。日本の電話BOX・公衆便所・道路・鉄道などのサインシステム、交番などに代表される都市の設備（ストリートファニチュア）は、そのほとんどが安全性が最優先に設計され、機能性、耐久性を兼ね備えたセンスあるデザインが生まれにくくなってしまった。皮肉にも市民の安全を守る象徴の交番が（一部は建築家によるデザインだが）、市民のデザインセンスや関心を高めるのに貢献しているとは言いがたい気がする。

莫大な交通量をさばく道路整備にかえ、たとえばヨーロッパの多くの都市にみられるように大通り以外を一方通行にし、交差点の流れを簡易化し（標識、信号も少なくなる）、広場をつくり、歩道をひろげ、歩くための環境整備――、お年寄りやベビーカーを押して歩く人々、身障者にも歩きやすい段差の少ない広い歩道、休むための木陰のベンチ、のどの渇きをいやす水飲み場、楽しくリズミカルに設置された電話BOX、バス停、車道とガードとベンチを一体にした長いベンチ――、そんな楽しくなるような街の風景が生みだされれば、日本の都市としての魅力も増すことになるだろう。

日本の管理社会を代表するような心なき河川や空地などの柵などが取り除かれ、少しずつ楽しめる風景に変わっていくことを願いたい。それには、このバルセロナに暮らす人々のように戸外に出て、散歩を楽しみ、街の環境に楽しさを求めるデザインセンスをもつことが大切のようだ。市民が行政を動かすことだ。

一重や二重にサイズを変えられるツリーサークル



向きや並べ方によって威圧感を出したり、表情を変えられる楕円形の車止め（上）。市民に座り心地がよいと人気のある木製のベンチ（下）。種類もたくさんある

バルセロナの道端には、ベンチやプランターがいたる所に置かれ、市民が思い思いにくつろぐ光景が数多く見受けられる

# LD PEOPLE

## 加藤　知
KATO SATORU

◆1955 年名古屋生まれ。77 年名古屋大学農学部林学科卒業。同年愛知県に就職。93 年から愛知県森林公園協会へ出向。緑化センター管理事務所指導課専門員として緑化の普及指導業務に携わる。

## 金澤良春
KANAZAWA YOSHIHARU

◆建築家◆1948 年長野県上田市生まれ。72 年法政大学工学部建築学科卒業（大江研究室）。73 年㈱坂倉建築研究所入所。88 年同所退職後、89 年金澤建築研究所設立。㈱アーククルー一級建築士事務所に参加。70 年より日本建築実測多数。79 年西澤文隆自邸設計担当。著書：『西澤文隆のディテール－自然と共棲する術』（共著）彰国社。

## 菊澤徹士
KIKUZAWA TETSUO

◆日本興業㈱代表取締役社長◆1942 年香川県生まれ。61 年香川県立高松高校卒。66 年香川ブロック工業㈱（69 年、社名を日本興業に変更）に入社。75 年取締役住宅事業部長、80 年代表取締役副社長、82 年代表取締役社長に就任、現在に至る。「美しく豊かな環境づくり」を企業理念とし、景観、リサイクル、エコロジー、生態系とのかかわりのなかで、こだわりをもったコンクリート 2 次製品づくりを目指す。

## 北村亜砂
KITAMURA ASA

◆1970 年東京生まれ。◆90 年修学のため渡西、95 年バルセロナエリサバデザインスクール卒業、卒業論文「バルセロナ　街の景観デザイン」、現在工業デザインスタジオ及び建築事務所で修業中。

## 中村雅子
NAKAMURA MASAKO

◆中村雅子デザイン事務所代表◆1960 年東京都生まれ。フェリス女学院、桑沢デザイン研究所卒業。84 年 Casappo&Associates、85 年 Plastic Studio&Associates、89 年中村雅子デザイン事務所設立。独立して 5 年後の 94 年 12 月よりスペイン、バルセロナにアトリエ開設、移住。商業施設から住宅まで幅広く設計。新たな分野を求めてヨーロッパで活動中。

## 萩原宏美
HAGIWARA HIROMI

◆写真家◆1960 年東京生まれ。82 年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。88 年個展「植物の楽しみ」。同年以降ライフワークのためにアジア、ヨーロッパ、中南北米各地を取材旅行。フリーランサーとして、本の装幀やエッセイのためのイメージ写真、ポートレート、美術作家の作品撮りをする。戦後社会のなかで急速に失われつつあるランドスケープと家族形態を写真によって記録し、私たちの意識のなかで再生させることができたらと思っている。

## 平松清房
HIRAMATSU KIYOFUSA

◆ランドスケープアーキテクト◆1947 年東京都生まれ、横浜育ち。70 年信州大学農学部森林工学科卒業後、㈱京央造園設計事務所を経て、73 年㈱あい造園設計事務所設立。専務取締役。シュルレアリストに捧げる庭を模索中で昨年彫刻家八木ヨシオとのジョイント展「様相の顕在 Phase : 1」を開催、今年「Phase : 2」を開催予定。最近の仕事に東京国際展示場（東京ビッグサイト）造園設計がある。著書：『園芸療法－植物とのふれあいで心身をいやす』(分担執筆) 日本地域社会研究所。

## 廣田治雄
HIROTA HARUO

◆写真家◆1950 年富山県生まれ。69～74 年東京綜合写真専門学校芸術科および研究科にて学ぶ。78 年写真展「奥能登一北の住環道」(新宿ニコンサロン)、79 年写真展「能登・住環道」（金沢大和百貨店）。森崎和江著『能登早春紀行』の写真を担当する。㈱プロセスアーキテクチュアを経て、90 年よりフリーカメラマン。

## 福川成一
FUKUKAWA SEIICHI

◆ランドスケープアーキテクト◆1947 年鎌倉生まれ。慶応義塾大学工学部管理工学科卒業。陶作家曾田雄亮氏に師事。岩城造園にて造園の伝統的手法を学ぶ。77 年福川成一研究室主宰。87 年㈱アーククルー一級建築士事務所設立。代表取締役。仕事：サッポロビール北海道工場「恵みの庭」、サッポロファクトリーアトリウム庭園、京都府丹波町プレイスケープガーデンほか。

## 藤田　茂
FUJITA SHIGERU

◆ランドスケープアーキテクト◆1947 年東京都生まれ。69 年東京農業大学造園学科卒業後、曽田香料㈱入社。天然香料の生産・研究を行う。71 年㈱日比谷花壇造園土木(91 年日比谷アメニスに社名変更)、92 年㈱エコル代表取締役。技術士（都市及び地方計画）。現在、都市建築物の緑化に関する調査、研究、技術開発、設計を行う。建設省中部地方建設局「特殊空間の緑化技術開発検討委員会」委員。都市緑化技術開発機構「特殊緑化研究会システム部会」部会長。仕事：新宿区「都市建築物緑化技術指針」ほか。

## 藤森照信
FUJIMORI TERUNOBU

◆建築史家◆1946 年長野県生まれ。東北大学工学部建築学科卒業。日本建築史を専攻。東京大学博士課程修了。現在東京大学生産技術研究所助教授。建築探偵であり、路上観察者でもある。著書に『明治の東京計画』岩波書店、『昭和建築物語』新建築社、『建築探偵の冒険・東京編』筑摩書房、『日本の近代建築（上・下）』岩波書店、『信州の西洋館』信濃毎日新聞社などがある。

## Brian Baker
ブライアン・ベイカー

◆ペリディアンジャパン所長◆大学卒業後、南カリフォルニア都市再開発事業団、建築会社勤務を経て 1983 年ペリディアン入社。88 年以降、主に日本のランドスケープアーキテクチャーのプロジェクトを担当。90 年カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校教授。92 年松本市にペリディアンのブランチオフィスを開設。現在は東京に本部を移した。志摩スペイン村、鳥取フラワーパーク、西梅田再開発などを手がけた。現在、東京女子美術大学にてランドスケープデザインの特別セミナーを指導している。